

## コロナ禍で続く県内 NPO の模索

わかつく第253号で、新型コロナウイルスの広がりに対して、和歌山県内のNPO・ボランティア活動がどのような影響を受けているのかについてご紹介しました。なかには大きな影響を受けているNPO・ボランティア団体も見受けられました。

今回は、コロナ禍で様々な模索を続けているNPOの事例をいくつかご紹介します。

### 新型コロナ対策で取り入れている工夫（抜粋）

- 手洗いやアルコール消毒の徹底
- マスク着用と検温の励行
- オンラインでの交流会への移行
- いわゆる「3密」を避けるよう呼びかけ
- 大規模な取り組みは中止し、小規模の取り組みを継続
- 必要な時以外は集まらない

### 新型コロナ対策で苦労している点（抜粋）

- オンラインを取り入れたいが高齢者も多く難しい
- 夏や冬の換気方法の工夫
- 窓を開けられる会場を確保しないといけない
- 利用者等が過度な不安を抱かないような心がけ

**ケース1** 子ども食堂の運営  
子ども食堂を運営しているA団体では、「3密」を避けるため、集まる子どもも食卓の運営ができません。また、子ども食堂の運営ができません。また、子ども食堂の運営ができません。

**ケース2** 地域のスポーツ団体  
県内でスポーツ活動に取り組む団体も、新型コロナウイルスの流行にともなって教室の休止が相次ぎました。B団体は公共施設などを借りてスポーツ教室をおこなっていましたが、施設の閉鎖などで長期間の休止を余儀なくされました。感染拡大が落ち着き、教室再開にあたっては、消毒液などの感染予防のための資材が必要になります。しかし、教室休止によって参加費等の収入が大幅に減少し、資材の購入資金が不足する事態になってしまったといえます。

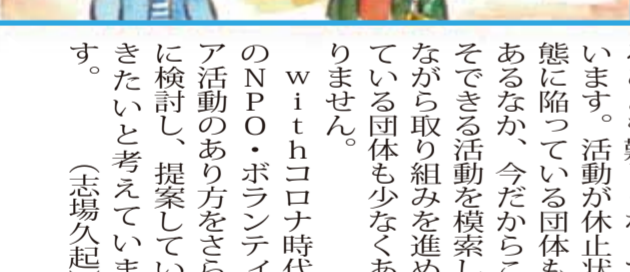
**ケース3** 病気の患者  
県内には様々な病気等の患者会や、患者を支援するための団体が組織されています。今回の新型コロナウイルスは既往症を持つ方が感染すると重症化しやすいという情報があったため、患者会等の活動はなかなか開催できない事態に陥りました。こういふときだからこそ、正確な情報をみなさんに届けなければならぬ、でも会合等で集まるのは困難、というジレンマに苦しんだ団体も少なくありません。

**ケース4** 観光ガイド団体  
新型コロナウイルスの影響で、主に外国人を対象とした観光ガイドをおこなっているF団体では、昨年春以降、ガイドの利用がほぼなくなりました。助成金を活用し、消毒液の感染予防のための資材を購入。また、ガイドのみなさんのスキルアップの期間と位置づけ、万葉集などについて学ぶ講座を開催、リモートによる観光ガイドの研究など、新たなプログラムの開発に向けた取り組みを進めました。

から、1か月おおよそ50世帯に対して食材配布をおこなうことができなくなりました。感染拡大が落ち着いてからは、完全予約制でも食卓を再開しています。



活動に際して様々な衛生用品が必要になり、負担感が増している（写真はイメージです）



### 近畿ろうきん NPO パートナシップ制度事業

～ SDGs の視点から～

## 新型コロナ感染症からみる NPO の役割

国連で採択され日本も参加している「SDGs（持続可能な開発のための目標）」では「誰一人取り残さない」ことを大きな目標としています。

新型コロナ感染症により、高齢者や子ども、病気が障がいを抱えた方など「社会的弱者」と呼ばれる方々の暮らしに影響がでています。

今回、コロナ禍において、模索しながらも活動を続けた NPO 法人に状況を紹介いただき、講師と共に「誰一人取り残さない」コロナ禍の社会について考えます。

2月28日（日）13:00～14:30

オンライン（ZOOM）開催

参加費 無料（事前申し込み必要）

#### 【お申し込みについて】

こちらのQRコードからお申し込みいただけます。

- ※ ネット環境により、ご参加いただけない場合があります。
- ※ 開催日前日をめぐり、視聴 URL をメールでお送りします。
- ※ スマートフォンでの参加の場合はWi-Fi環境下からご参加ください。
- ※ ZOOMの操作に関するご質問にはお答えできません。
- ※ 申し込み締切は2月27日（土）です。

#### 【スケジュール】

13:00～ 事例紹介

登壇者 NPO 法人いきいき和歌山がんサポート

NPO 法人子どもの生活支援ネットワークこ・はうす

13:40～ 対談「コロナ禍における NPO を取り巻く動向」

ゲスト 石原達也氏（岡山 NPO センター代表理事）

2001年、大学生のみのNPO法人設立に参画したことからNPO業界に。活動を続ける中で支援者を志すようになり2003年鳥取市社会福祉協議会に入職。ボランティアコーディネーターを務めた後に転職し、出身地・岡山でNPO法人岡山NPOセンター事務局長に就任（現在、代表理事）。その他、（公財）みんなで作る財団おかやま（顧問）、NPO法人みんなの集落研究所（代表執行役）、（一社）北長瀬エリアマネジメント（代表理事）、PS 瀬戸内株式会社（代表取締役）等の設立に関わる。

#### 【お問い合わせ】 認定 NPO 法人わかやま NPO センター

TEL 073-424-2223（火曜～金曜の10時～17時、不在時は和歌山県NPOサポートセンターに転送されます）

FAX 073-423-8355 E-mail info@wnc.jp

主催：認定 NPO 法人わかやま NPO センター

共催：近畿労働金庫

後援：公益社団法人和歌山県労働者福祉協議会、和歌山県生活協同組合連合会



新型コロナ禍のなかで、どのように活動を進めていったのか、実践についてお話をいただきます。

新型コロナに伴う全国調査の結果などを踏まえて、今後の市民活動に必要なことをうかがいます。